

修二会 響く1272年の祈り



咒師と呼ばれる僧が水をくむため、二月堂の下にある建物「閻伽井屋」に向かう＝2020年、奈良市の東大寺

「お水取り」と呼ばれる奈良の東大寺の修二会の本行が1日から14日間、国宝の二月堂で行われている。人々が犯した罪を僧たちが悔い改める行で、音楽のような「声明」を唱えて祈る。1272回目を数える今年、声明が14年ぶりに寺外で特別公演される。修二会を「最高のショー」と表現する歌手のさだまさしさん(70)に魅力を感じた。



さだまさしさん
＝工藤隆太郎撮影

東大寺とご縁を頂いたのは1980年です。昭和の大修理を終えた大仏殿で、落慶法要記念コンサートをしました。翌81年だったと思います。が、初めて二月堂で修二会を拝聴しました。それから3、4年に1度は二月堂におこもりをさせて頂き、「修二会」という歌も作りました。修二会は戦時中もコロナ禍も休むことなく、1270年以上も続いてきたことが驚異です。最高のショーでもあり、ショーに必要な要素のすべてが揃っています。ヒントの宝庫でもあるんです。

東大寺と縁 さだまさしさん

人々に代わり 罪を悔いる

修二会は、旧暦2月に行われる悔過法要。悔過とは、人々の犯した罪を、練行衆と呼ばれる11人の僧が人々に代わって悔い改め、国家安寧や五穀豊穰、世界平和を祈ること。二月堂の本尊の十一面観音に祈ることから、十一面悔過法要といわれる。

修二会が始まったのは、奈良時代の752年の旧暦2月。この年の4月に大仏が開眼した。それ以来、コロナ禍のいままで一度も途絶えることなく続き、「不退の行法」と呼ばれる。

声明は、節のついたお経のこと。練行衆が抑揚をつけて唱え、鐘や鈴、法螺貝の音も加わって、一つの仏教音楽を成している。なかでも「南無観、南無観……」と、本尊の名をコーラスのように繰り返す「宝号」が知られる。

コロナ下、練行衆らは自坊などで10日間の隔離生活を経て修二会に臨んだ。感染予防のため、2021年から3年続けて参拝者は二月堂へ入れない。修二会は3月15日未明まで続けられる。

人の僧がとばかりから飛び出てきて、五体板という板にダーンと体を打ち付ける作法があります。五体投地と呼ばれますが、見ているだけでワクワクします。誰でも一度やってみてほしいと思いますよ、きっと。

声明は、緩急がとれていてすばらしい。高揚感があり、見事なシンフォニーです。ぼくの音楽も、こうありたいと思いますね。

二月堂で息を殺し、シートと行を見ていると、いろいろなものが見えてきます。現場にいる人間にしか伝わらない何かがある。コンサートでも感じるんです。映像では本当の魂みたいなものは伝わりません。

続けているすばらしさ、継続するすごみ、これは何ものにも代えがたい。一度でも滞ったら、この先、1272年も続けなければ追いつきませんからね。偉大なあとを思います。

人間が優れていると思うのは、誰かが見ていると張りきるといふこと。高揚感が違います。行も1人では盛り上がりませんよね。修二会を始めた僧は、見せるということ計算に入れていきますよ。老若男女が見

に来たときに退屈させてはいけない、と。

ぼくもコンサートでは普段の倍以上の力が出ます。前日の晩に足の爪がはがれても、ステージにあがれば走れますからね。それぐらい人間は誰かに見られていると、体の中から違うものを出していると思います。

東大寺の僧がコロナ下でも修二会を続けているように、ぼくもコンサートをやめています。「ショー・マスト・ゴー・オン」という言葉があります。まさにショーを止めるな、始めたら最後までやり切れ。なにがあっても続けなければならぬと思います。気がつけば、コンサートは4500回を超えました。この「続ける」ということは、修二会に教わりました。

ぼくは二月堂以外で声明を聞いたことがありません。5月にフェスティバルホールで特別公演があるので、「行かせてよ」とスタッフに言っているところです。広い舞台に響く声明は、二月堂とは別の美しさです。すごみが出ると思います。

(構成・岡田匠)

寺 修二会の声明
◆5月13日午後2時、大阪・中之島のフェスティバルホール(06・6231・2221) ◆5月20日午前11時と午後3時、東京都千代田区の国立劇場。予約は4月18日から国立劇場チケットセンター(0570・07・9900)など。

◆5月13日午後2時、大阪・中之島のフェスティバルホール(06・6231・2221) ◆5月20日午前11時と午後3時、東京都千代田区の国立劇場。予約は4月18日から国立劇場チケットセンター(0570・07・9900)など。